

3 愛知県・名古屋市での節水努力の呼びかけ

土地水資源課
産業立地通商課
農地計画課
水道計画課
水道事業課

【愛知県・名古屋市での節水努力の呼びかけ】

広報活動のとりまとめ

愛知県では、平成 25 年度に次のとおり「水の大切さ」や「節水」等と呼びかける広報活動を行った。

愛知県における節水 P R 等に関する取組状況について

部 局 名	取 組 内 容	備 考
地域振興部 土地水資源課	ホームページで節水型社会の形成に向けての P R	資料
	節水ステッカーの配布	資料
産業労働部 産業立地通商課	「工業用水施策のあらまし」ホームページ掲載	資料
農林水産部 農地計画課	「あいちの農業用水展」開催	資料
企業庁 水道計画課 水道事業課	【平常時】	
	パンフレット・パネル展示等による節水啓発	資料
	水道週間の各イベントにおける節水の啓発	資料
	小学 4 年生を対象とした出張講座	資料
	親子ふれ愛・水源地探検ツアー	資料
	ホームページに水源状況の掲載	資料
	水道事務所における水源状況の掲示	資料
	【渇水時】	
	節水への協力を呼びかける広報活動	資料
	ホームページに節水対策状況の掲載	資料
各水道事業者への給水制限実施の通知	資料	



ホーム 暮らし 観光・レジャー ビジネス・産業 愛知県政

ホーム 暮らし 社会基盤・交通 水資源 情報



印刷用ページを開く

土地水資源課 水資源対策のページ

[2012年6月11日]

水資源開発の概要

- [水使用実績の現況](#)
- [水資源開発概要図](#)
- [設楽ダム建設事業について](#)
- [木曽川水系連絡導水路事業について](#)
[検証対象ダム事業の関係地方公共団体からなる検討の場（国土交通省中部地方整備局）](#)
- [長良川河口堰検証について](#)

水源地域対策

- [水源地域と受益地域の交流](#)

『水』を感じる旅をご紹介します



私たちの生活に深く関わる『水』を感じる旅をご紹介します。

節水型社会の形成

- [水の週間・全日本中学生水の作文コンクール](#)
- [家庭のできる簡単な節水方法](#)

水源の状況

- [国土交通省 中部地方整備局 提供](#)
- [独立行政法人 水資源機構中部支社 提供](#)



第35回「全日本中学生水の作文コンクール」審査結果について

[2013年7月18日]

平成25年7月18日（木曜日）発表

8月1日は「水の日」、この日から一週間は「水の週間」とされ、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について関心を高め、理解を深めるための行事の一環として、国土交通省及び各都道府県では、次代を担う中学生を対象に水の作文コンクールを実施しております。

第35回となる今年度は、「水について考える」をテーマに募集したところ、愛知県では県内の中学生から333編の応募があり、うち8編を愛知県表彰における優秀作文として選定しました。

愛知県審査の概要及び結果

- 1 募集期間 平成25年4月1日から5月10日まで
- 2 テーマ 「水について考える」（題名は自由）
- 3 応募数 333編（応募学校数12校）

愛知県審査結果（入賞者8名）

賞区分	氏名	学校名・学年	作文題名
最優秀賞	山本 大聖 (やまもと たいせい)	安城市立安城西中学校 3年	「青い地球」を守ろう
優秀賞	鈴木 万絢 (すずき まひろ)	安城市立安城西中学校 3年	「水」と共にあること
"	原 舞花 (はら まいか)	清須市立西枇杷島中学校 3年	証し
入選	伊藤 正子 (いとう まこ)	滝学園滝中学校 3年	水を考えることの大切さ
"	染葉 紀香 (そめは のりか)	尾張旭市立東中学校 3年	水と私たちの未来
"	平山 遥菜 (ひらやま はるな)	豊田市崇化館中学校 3年	五百ミリリットル、五百円の水
"	護 ことみ (もり ことみ)	名古屋市立滝ノ水中学校 3年	「美しい水を守れ」
"	森 美優 (もり みゆう)	津島市立藤浪中学校 3年	だまし絵にみるだましでない水の流れ

最優秀賞・優秀賞：賞状、盾、副賞

入 選：賞状、副賞

最優秀賞及び優秀賞作品は、[第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 受賞作文のページ](#)にてご覧になれます。

(参考)

募集案内



(ファイル名:35_boshuannai.pdf サイズ:114.76 KB)

第35回「全日本中学生水の作文コンクール」募集案内



PDFファイルの閲覧には Adobe Reader が必要です。同ソフトがインストールされていない場合には、[Adobe 社のサイトから Adobe Reader をダウンロード\(無償\)してください。](#)

中央審査(国土交通省)結果につきましては、国土交通省水管理・国土保全局水資源部のホームページにてご覧になれます。

<http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/index.html>

[土地水資源課のページへ](#)

お問い合わせ

愛知県 地域振興部 土地水資源課
企画グループ
担当：瀬古、藤井
電話：052-954-6118(ダイヤルイン)
E-mail：tochimizu@pref.aichi.lg.jp

[ページの先頭へ戻る](#)

[県機関の連絡先](#)

[個人情報の取扱い](#)

[Webページ作成方針](#)

[リンク方針](#)

[ネットあいちについて](#)

愛知県

Copyright © 2007-2014, Aichi Prefecture. All rights reserved.



ホーム



第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 最優秀賞 <「青い地球」を守ろう>

[2013年7月18日]

<「青い地球」を守ろう> 安城市立安城西中学校 3年 山本 大聖(やまもと たいせい)

「もしも、家の水道の蛇口から水が出なかったら、どうなる？」

僕は、家族に聞いてみた。すると母が、

「明日、水が出ない日ということにして体験するのは、どう？」

と提案され、家族で一日体験することに決まった。

朝起きてトイレへ行くと、水を流すボタンに『使用禁止』の張り紙がされていた。すると、

「お風呂の残り湯をバケツにくんで流して。」と言われ、朝から大変な一日が始まったと思った。それから、手を洗うことも、顔を洗うことも、歯みがきすることもできなかった。トイレへ行けば、バケツくみが待っている。台所では、水がないと、ご飯も炊けないし、みそ汁も作れない。なべや食器も洗えないと母が嘆いていた。計画的断水だったが、一日ももたないで家族中ギブアップだった。

蛇口をひねれば、いつも当たり前に出と思っていた水。水が出ない生活は、とても不便で大変なことだと実感した。

水道の蛇口をひねれば、透き通ったキレイな水を飲むことができる。当たり前と思っていたこの水は、浄水施設で川、湖、地下水などの自然の水からいろいろな物をろ過して取り除き、消毒をして安全な飲み水にしているのです。そして、水道管を通して家に届けられます。この仕組みのおかげで、僕たちは家の蛇口をひねるだけで、いつもキレイな水を飲むことができるのです。

しかし、アフリカなどの発展途上国には、この仕組みがないために、家から何キロも離れた川や湖から水を運びます。この水くみの仕事は子供がしているそうです。バケツに水をくんで何キロも歩いて家へ持って帰る。一日に何度も往復して運んでいるため、学校へも行けないというのです。また、不衛生な水のためにたくさんの子供の命が失われてしまうのです。なかには、水というのが透明で透き通っていることの知らない子供がいることを知り、僕はショックを受けました。住んでいる国によって、こんなに環境が違う。自分は、とても恵まれているんだと改めて思いました。

水不足の国も多くあり、最近では水をめぐって国際紛争もおこっているとニュースで見ました。水で戦争？この地球は「青い地球」と言われるほど水の豊かな惑星なのだから、水はたっぷりあるのに戦争なんて、と思っていました。でも、この地球上にある水のほとんどは海水で、そのまま飲むことはできない。僕たちが生きるために使える水は、本当にわずかな水しかないというのです。蛇口をひねれば出てくる水も、実は限りあるものだと知り、水に対する考え方が変わりました。

この地球上にいる生き物すべてが、生きていくために水は絶対に必要なものです。もちろん、農作物や畜産物を育てるためにも、水は必要です。水がなければ、何も育たず枯れてしまい、たくさん命が失われてしまうのです。水が無くなってから水のありがたさを知っても間に合わない。そうなる前に、水についてもっときちんと知り、考えなければいけないのだと思います。

僕は、まず自分にできること。例えば、水を出しっぱなしにしない節水を心がけようと思います。ま

た、風呂の残り湯を、洗濯や掃除、花だんの水まきに使うこと。とても小さなことかもしれないけれど、僕は、この青い地球を守るために、今、自分にできることをしたいと思っています。

水を大切に!!

[受賞作文のページへ戻る](#)

関連コンテンツ

- ◇ [第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 受賞作文](#)
- ◇ [第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 最優秀賞 <「青い地球」を守ろう>](#)
- ◇ [第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 <「水」と共にあること>](#)
- ◇ [第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 <証し>](#)

お問い合わせ

愛知県 地域振興部 土地水資源課

E-mail: tochimizu@pref.aichi.lg.jp

[ページの先頭へ戻る](#)

[県機関の連絡先](#)

[個人情報の取扱い](#)

[Webページ作成方針](#)

[リンク方針](#)

[ネットあいちについて](#)

愛知県

Copyright © 2007-2014, Aichi Prefecture. All rights reserved.



ホーム



第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 <「水」と共にあること>

[2013年7月18日]

<「水」と共にあること> 安城市立安城西中学校 3年 鈴木 万絢(すずき まひろ)

「水」をイメージするとまずでてくるもの。それは毎日おいしくいただいている水、顔や体を洗う水。お風呂にも毎日たくさんのお水を入れています。洗濯や食器洗い、トイレを流したり・・・これらは私達が普段何も気にせず、蛇口をひねればいつでも出てきてくれるものばかりで、私にとって一番身近な水です。

次に、美しい自然の水。我が家の周りは今田植えの真っ最中で、田んぼには水がはられ水面は風にゆられ、太陽の光を浴びてキラキラと輝いています。この光景を見ると何だか心がスッとします。朝にはこの景色の中を自転車をこぎながら、「今日も部活頑張ろう!!」という気分で駆け抜けて行くのです。また、私は海や川、特に滝は清々しい気持ちになれて、とても大好きです。このように心を清らかにしてくれる水、これが二番目です。

そして三番目がとても強烈な印象を与えられた水。それは東日本大震災での津波です。夢のような光景であるとはかと思えませんでした。少し時が経ってからやっと、これは本当の話なんだ、大変なことが実際に起こってしまっているんだ、ということを理解し、とても怖くなりました。私は昔、祖父が伊勢湾台風の際に堤防が切れて水が自分の後ろへ迫ってくる中、母親を背負って必死で逃げたという話を聞いていました。言葉では言い表せない位怖かった、と言っていたのを思い出します。どちらも沢山の人の命をのみ込んでいってしまった、見聞きするだけでも恐怖でしかない水です。

このように私達は、とても美しい自然の中の水に囲まれ、とても便利にそれを使い、時としてその恐怖に身を震わせる。ずっとずっと昔から、日本人はそうして生きてきた、とても水とかかわりの深い国民なのだと思います。

だからこそ、水とは上手に付き合っていかななくてはならない国民でもあると思います。

最近都会では大雨の時などうまく排水機能が働かず、浸水したりするそうですね。人間が自分たちが便利のように作ってきた街で、そういうことが起きてしまう。何だか自然と上手く共存できていないのかなあ・・・、と思ってしまいます。

昔、工場排水の垂れ流しが原因で水俣病やイタイイタイ病が発生しましたが、今は行政による規制でそういった問題は減ったように思っていました。しかし小学校4年生の時、夏休み課題研究で洗剤について調べ、物を綺麗にする為の洗剤が原因で水を汚染していることを知りました。それに、おわん一杯のみそ汁を川に流したら、魚が住める水質にするために浴槽の水が4、5杯分位必要だということを知りショックでした。自分達が口にしてる物を川に流したとしても川に住む魚達もそれを食べられるものだと思っていたからです。とんでもない間違いでした。

今は下水処理の技術も進歩し、そういった問題は解決の方向に向かっていると思いますが、各個人が気をつけなければいけないという点では企業が原因の汚染よりも厄介なのかもしれません。企業が原因ならばその企業を取り締まることで解決できますが、各個人を取り締まるというのは相当大変であることでしょう。

回り回って自分達の口へ入ってくるもの。そのことへの意識をより多くの人が持つこと、それが今とても大切なことなのではないでしょうか。

日本に住む人間として綺麗な水の流れる美しい自然を守りながら、おいしい水を口にしていき続けた
い。その為には私達にも努力が必要であると思ひ直しました。

みなさんどうか水とともにある生活を今一度みつめ直して下さい。そして水を守りましょう。

[受賞作文のページへ戻る](#)

関連コンテンツ

- ◇ [第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 受賞作文](#)
- ◇ [第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 最優秀賞 <「青い地球」を守ろう>](#)
- ◇ [第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 <「水」と共にあること>](#)
- ◇ [第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 <証し>](#)

お問い合わせ

愛知県 地域振興部 土地水資源課

E-mail: tochimizu@pref.aichi.lg.jp

[ページの先頭へ戻る](#)

[県機関の連絡先](#)

[個人情報の取扱い](#)

[Webページ作成方針](#)

[リンク方針](#)

[ネットあいちについて](#)

愛知県

Copyright © 2007-2014, Aichi Prefecture. All rights reserved.



ホーム



第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 <証し>

[2013年7月18日]

<証し> 清須市立西枇杷島中学校 3年 原 舞花(はら まいか)

私の町には、地域の掲示板に特別な証しがある。学校への通学路、私はその証しで「水」について思いを巡らせる。

平成12年9月11日に、東海豪雨により私の町は浸水した。当時2歳である私に鮮明な記憶は残っていない。けれど、茶色の水であふれる町と、父と母の甚だしい様子はかすかながら、私の胸に残っている。

その日、母は混濁した水から私を守るため、真っ先に透明の水を用意したそう。母は兵庫県出身で、阪神淡路大震災を経験している。また、祖母は災害に対していつも口にする言葉がある。「飲料水は常に3日分は備えておきなさい。」母は水の大切さと、必要性を知っていた。だから、蛇口から水が出るうちに、母は多くの水をためた。おかげで、その後の3日間一滴も水が出ない状態が続いたが、我が家は水に困ることはなかった。さらに、水に困る近所の人に、水を分けることもできた。水についての知識が少しあるだけで、私の家族はもちろん、近所の人も助けることができたのだ。人と人とのつながりが、水によって改めて感じられた瞬間だった。

私の町では、今も両親や学校の先生、地域の人から東海豪雨の話が語りつがれる。身近な人から話を聞くことで、私はたくさんのことを感じることができる。中でも、水の大切さは、一番強く伝わってくる。水がないと、飲み水を得ることができない。もちろん、お風呂なんて入れないし、「洗う」ということができない。洗濯、歯磨き、自分の手さえも洗えないため、清潔さを失い、病気にかかることもありうる。さらに、水洗式トイレが多用されているため、流すことも不可能。他にも生活における支障は数えきれないほどあるだろう。つまり、水がないと、生きていけないのだ。

私は水について考える。水とは一体何だろうか。答えは、前に述べたように、「生きるために欠けてはいけないもの」だと思う。生きていけないのは人だけではない。この地球に存在するほとんどが、水によって支えられている。しかし、誰もが必要としているにもかかわらず水は平等ではない。

日本は水に富んだ国だが、発展途上国といわれる国では、水不足に苦しみ、命をおとす人はたくさんいる。水があっても、本当に衛生的な水を得られているとは限らない。もしかしたら、「水」といわれて透明な液体を想像できない人の方が多いかもしれない。今、きれいな水を使えるのはほんのひとにぎりだけ。私は地球の水の不平等さに不満をかかえる。誰もが必要としているのだから、平等に分けあうのがルールであり、地球で共有するべきではないか。私だけではなく、地球にいるみんなが水のあり方を考えるべきだと思う。

私たちにいちばん重要なのは、水の大切さを頭の中においておくことだと思う。なぜなら、これを少しでも理解していれば、水があることの有り難さを感じられると思うからだ。

文頭の証しとは、東海豪雨浸水水位を表したものだ。それを見るたび、東海豪雨の体験談と、私の水についての思いが広がる。水がなければ、水害は起きない。しかし、水がなければ、雲もない。海もない。地球もない。そして、私もない。太陽系で一番美しいのは地球だと思う。それは、きっと水があるからだ。掲示板の証しをみた後、私は上を見上げる。淡い色で透き通った青空が、そこにある。青空は、世界の水を映す鏡だと、私は思う。ここには水がある。だから、私もいる。水は、自分の存在をも教えてくれる証しであった。

[受賞作文のページへ戻る](#)

関連コンテンツ

- ◇ [第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 受賞作文](#)
- ◇ [第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 最優秀賞 <「青い地球」を守ろう>](#)
- ◇ [第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 <「水」と共にあること>](#)
- ◇ [第35回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 <証し>](#)

お問い合わせ

愛知県 地域振興部 土地水資源課

E-mail: tochimizu@pref.aichi.lg.jp

[ページの先頭へ戻る](#)

[県機関の連絡先](#)

[個人情報の取扱い](#)

[Webページ作成方針](#)

[リンク方針](#)

[ネットあいちについて](#)

愛知県

Copyright © 2007-2014, Aichi Prefecture. All rights reserved.

(参考資料)

全日本中学生水の作文コンクール実績(愛知県分)

	応募状況								表彰数	
	応募 学校数	応募総数	性別		学年別				知事表彰	国の表彰
			男	女	1年	2年	3年	不明		
第1回 (昭和54年度)	校 12	編 349	名	名	名	名	名	名	編	編 1
第2回 (昭和55年度)	16	113	30	83	46	22	35		最優秀賞 優秀賞 入選 計 11	1 4 6 11 入選 2
第3回 (昭和56年度)	28	439	164	275	191	129	119		最優秀賞 優秀賞 入選 計 23	1 4 18 23 入選 1
第4回 (昭和57年度)	26	335	127	208	78	166	91		最優秀賞 優秀賞 入選 計 15	1 4 10 15 入選 1
第5回 (昭和58年度)	26	254	86	168	58	101	95		最優秀賞 優秀賞 入選 計 11	1 4 6 11 入選 1
第6回 (昭和59年度)	31	598	217	381	288	121	189		最優秀賞 優秀賞 入選 計 15	1 4 10 15 公団総裁賞 入選 1 1
第7回 (昭和60年度)	30	574	219	355	245	184	145		最優秀賞 優秀賞 入選 計 15	1 4 10 15 入選 1
第8回 (昭和61年度)	30	320	112	208	112	123	85		最優秀賞 優秀賞 入選 計 10	1 4 5 10 入選 1
第9回 (昭和62年度)	25	916	409	507	401	384	131		最優秀賞 優秀賞 入選 計 10	1 4 5 10 入選 1
第10回 (昭和63年度)	25	704	291	413	239	150	315		最優秀賞 優秀賞 入選 計 10	1 4 5 10 入選 1
第11回 (平成元年度)	50	1,232	503	729	501	403	328		最優秀賞 優秀賞 入選 計 15	1 4 10 15 入選 2
第12回 (平成2年度)	52	1,148	518	630	440	400	308		最優秀賞 優秀賞 入選 計 10	1 4 5 10 入選 1
第13回 (平成3年度)	35	734	346	388	270	206	258		最優秀賞 優秀賞 入選 計 10	1 4 5 10 該当なし
第14回 (平成4年度)	36	383	135	248	139	143	101		最優秀賞 優秀賞 入選 計 10	1 4 5 10 全日本中学校 長会会長賞 1
第15回 (平成5年度)	33	988	444	544	191	391	406		最優秀賞 優秀賞 入選 計 10	1 4 5 10 該当なし

	応募状況								表彰数			
	応募 学校数	応募総数	性別		学年別				知事表彰	国の表彰		
			男	女	1年	2年	3年	不明				
第16回 (平成6年度)	35	883	358	525	259	390	234		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選	1
第17回 (平成7年度)	30	940	454	486	442	244	254		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし	
第18回 (平成8年度)	28	300	124	176	97	155	48		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 4 9	入選	1
第19回 (平成9年度)	17	393	167	226	208	81	104		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし	
第20回 (平成10年度)	25	347	139	208	166	79	102		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし	
第21回 (平成11年度)	28	719	306	413	234	374	111		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選	1
第22回 (平成12年度)	15	330	189	141	137	50	143		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし	
第23回 (平成13年度)	13	222	105	117	88	53	81		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし	
第24回 (平成14年度)	10	238	128	110	74	87	77		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 6 11	入選	1
第25回 (平成15年度)	16	518	262	256	17	330	171		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 3 6 10	該当なし	
第26回 (平成16年度)	10	371	198	173	37	127	177	30	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選	2
第27回 (平成17年度)	13	430	-	-	178	144	104	4	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし	
第28回 (平成18年度)	13	385	-	-	49	188	148		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし	
第29回 (平成19年度)	11	530	-	-	128	77	325		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	優秀賞(中央審査会特別賞)	1
第30回 (平成20年度)	12	833	-	-	348	189	294	2	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし	

	応募状況							表彰数		
	応募 学校数	応募総数	性別		学年別				知事表彰	国の表彰
			男	女	1年	2年	3年	不明		
第31回 (平成21年度)	13	385			84	222	79		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8 最優秀賞(国土 交通大臣賞) 1
第32回 (平成22年度)	11	305			120	62	123		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8 該当なし
第33回 (平成23年度)	19	620			238	140	242		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 6 9 入選 1
第34回 (平成24年度)	17	165			87	55	23		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8 優秀賞(独立行政法 人水資源機構理事長 賞) 1 入選 1
第35回 (平成25年度)	12	333			74	104	155		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8 該当なし



ホーム

印刷用ページを開く

家庭でできる簡単な節水方法

[2011年5月13日]

家庭でできる簡単な節水方法

現在、日本では、水道の蛇口をひねれば、簡単に水を手に入れることができます。そのため、私たちは、水は豊かにあると思いがちです。しかし、水は限りあるものであり、貴重な資源です。これからは、必要な分だけを使うようにし、むだな使用はなくすように努めて、「節水型社会」をつくっていく必要があります。

いま一度、自分の生活を見直し、毎日の生活の中で水の使い方の工夫をしてみましょう。工夫の一例を紹介します。

炊事後片付けの工夫

食器・フライパンは、油汚れなどを新聞紙や布で落としてから水洗いをする、水を節約することができます。また、蛇口のこまめな開け閉めを心がけましょう。

歯みがきのときは水を止める

30秒間水を出しっぱなしにすると、約6リットルもの水を使います。4人家族の朝晩の歯みがきで水を出しっぱなしにすると、1年間で500ミリリットルのペットボトル3万5040本もの水になります。

コップなら3杯程度ですみます。

洗濯はお風呂の残り湯で

浴槽は小さなものでも200リットル。水温が高いので汚れ落ちも良くなります。また、洗濯だけでなく、ふき掃除や植木の水やり、まき水にも使いましょう。

水洗トイレも節水できます

水洗トイレの洗浄レバーは、大きさを適切に使い分けることによって水を節約することができます。また、新築・改築時には節水型の機器を積極的に取り入れましょう。

洗車はバケツで

バケツ洗いなら30リットル程度ですむ洗車も、流しっぱなしのホース洗いでは、240リットル以上の水を使ってしまうます。

お米のとぎ汁は植木にまきましょう

栄養分があるので肥料になり、河川の汚れも防げます。

[水資源対策のページに戻る](#)

[土地水資源課のトップページに戻る](#)

お問い合わせ

愛知県 地域振興部 土地水資源課
企画グループ
電話 052-954-6118 (ダイヤルイン)
E-mail: tochimizu@pref.aichi.lg.jp

[ページの先頭へ戻る](#)

[県機関の連絡先](#)

[個人情報の取扱い](#)

[Webページ作成方針](#)

[リンク方針](#)

[ネットあいちについて](#)

愛知県

Copyright © 2007-2013, Aichi Prefecture. All rights reserved.



節水ステッカー一覽

水は限りある貴重な資源です。
 このステッカーは県民のみなさんに水を大切に使うために作成したものです。
 希望される方は、当課まで、[メール](#)またはお電話でお問い合わせください。
 なお、数に限りがあり在庫終了の場合もありますので、ご了承ください。

昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度
平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度
平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
平成10年度	平成11年度	平成13年度	平成14年度
平成15年度			